令和５年度

第５次総合計画　中期戦略事業プラン　事務事業評価シート

事業名	図書館における生涯学習推進事業			事業番号	11-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部	大山　剛	図書館・子ども科学館	林　かをり	

計　画　（Ｐｌａｎ）

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり
		施策展開の方向	6	いつまでも学び生きがいがもてるまちをつくる
		施策	11	学習成果を生かせる生涯学習の推進
予算事業名	図書館運営事業費			
事務区分〔選択〕	◉ 自治事務　○ 法定受託事務　（選択してください）→		法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成30年度　～	終了年度	令和4年度
関連法令等	図書館法（昭和二十五年四月三十日法律第百十八号）、文字・活字文化振興法（平成十七年七月二十九日法律第九十一号）、子どもの読書活動の推進に関する法律(平成十三年十二月十二日法律第百五十四号)			
国・県の計画等	かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画		計画期間	5年更新
関連個別計画	第2期伊勢原市教育振興基本計画、第2次伊勢原市子ども読書活動推進指針		計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景（事業を取りまく環境・市民ニーズ）	図書館では、職員と共に長年読書普及活動を行ってきたボランティアがいますが、その継続の支援を行うこと、また新しく読書啓発ボランティアを育成することは、社会教育施設として市民の生涯学習の機会を増やし、生きがいや活動の場を提供することにも繋がるため、積極的に実施する必要があります。			
目　的（何をどうしたいのか）	読書啓発ボランティアを育成・支援するとともに、ボランティア活動を通じた生涯学習や活動の場を提供することで、市民の読書活動の普及促進を図ります。			
主な対象（誰・何を対象に）	市民及び図書館利用者			
事業内容（手段、手法など）	・ボランティア養成講座を開催するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した読書啓発ボランティア活動の研究を進めます。			

事業行程	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	ボランティア育成・支援講座（障がい者サービス含む）	ボランティア講座開催（2回）	ボランティア講座開催（4回）

目　標	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	ボランティア人数（累計）	69名（令和2年度）	70名	73名

事業実施（Do）

事　業　実　施　　（Ｄｏ）

事業の「取組方針」 （前年度事務事業評価）	ボランティア養成講座を開催するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した読書啓発ボランティア活動を推進し、市民の読書活動の普及促進を図ります。

実施方法〔選択・記入〕				
◉ すべて直接実施	○ 左記以外			
☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者		
☐ 補助金		補助先		
☐ その他		具体の内容		

実施結果	項目	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	ボランティア育成・支援講座（障がい者サービス含む）	0回	3回

実施した取組の内容	バリアフリー資料である「布えほん」について、連続講座(2回)を開催し、おはなし会等での利用・実践及び、布えほん製作ボランティアの養成をはかりました。また、当館で活動中のボランティアに対して、図書館ボランティア活動への理解を深めるための座学及び交流会(1回)を開催しました。

目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度 令和3年度	年度 令和4年度
	ボランティア人数（累計）	69名 （令和2年度）	71名	89名

コスト	年度	令和3年度　実績		令和4年度 実績	
	事業費合計(a)	0	千円	40	千円
内訳	国県支出金 ①	0	千円	0	千円
内訳	地方債　②	0	千円	0	千円
内訳	その他特財　③	0	千円	0	千円
内訳	一般財源 (a)-①-②-③	0	千円	40	千円
	国県支出金の内容				
その他特財の内容	受益者負担	○ 有　◉ 無	前回の改定時期		
その他特財の内容	その他				

人件費							
正規職員	0	人	0	千円	0.05	人	429	千円
その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円
人件費合計(b)	0	人	0	千円	0.05	人	429	千円
トータルコスト (a)+(b)			0	千円			469	千円

単位当たりコスト		令和3年度		令和4年度	
対象数	定義	講座受講者数	単位	講座受講者数	単位
対象数	対象数	0	人	60	人
総事業費／対象数			円	7,817	円

評価　（Check）へ

評　価　（Ｃｈｅｃｋ）

進捗状況 〔選択・記入〕	◉ 計画どおり（A） ○ 概ね計画どおり（B） ○ 計画どおり進捗せず（C）	A	**左記判断理由**	新型コロナ感染症感染予防に配慮しながら、図書館ボランティアによる読書啓発活動を軌道に乗せることができました。養成講座については内容を精査して慎重に開催しましたが、さまざまな活動メニューを用意したことにより、目標値を上回る人数が図書館ボランティア活動に従事することができました。
実施水準 〔選択・記入〕	○ 他市より高い水準で実施（A） ◉ 他市と同水準で実施（B） ○ 他市より低い水準で実施（C） ○ 一律に比較できない事業	B	**他都市の事業内容等**	ボランティアによるおはなし会については、近隣市町村でもコロナ前に回復する傾向にあります。
有効性 〔選択・記入〕	◉ 高い（A） ○ 普通（B） ○ 低い（C）	A	**左記判断理由**	図書館の実施する読書普及活動に関心を持つ市民は少なからず存在しています。読み聞かせ活動等については、地域や学校での取り組み実例があることから、ボランティア養成講座の実施は、図書館ボランティアだけでなく、市域全体での読書普及活動に有効です。
効率性 〔選択・記入〕	◉ 効率的に実施されている（A） ○ 改善の余地がある（B） ○ 抜本的な改善が必要である（C）	A	**左記判断理由**	図書館で活動するための専門知識獲得のためには、相当な時間と経費が必要となりますが、ボランティア団体や登録ボランティアとして活動していく中で、経験者や図書館の助言を得ることができるシステムとしているため、育成が効率的に実施されています。

取組内容の改善　（Action）へ

取組内容の改善　（Ａｃｔｉｏｎ）

所管部長による総評	読書活動の普及促進には職員のノウハウだけでなく、ボランティアを含めた幅広い意見を取り入れながら進めることが重要です。その一翼を担うボランティアの育成には時間が必要となることから、これまでの取組を継続しながら、より効果的な手法を常に模索し、創意工夫しながら事業を実施してください。